

ずばりっ! 町政

問 次期障がい福祉計画の具体的な作成方針は

答 相談支援事業所を中心とした障がい福祉事業者などの意見を聴取し策定する。

問 共生の地域づくりに向けた障がいへの合理的配慮や障がい理解をどのように進めるか

答 先進的な取り組みを行っているところもあるが、町の人口に占める障がい者数も考慮しながら、できる範囲での取り組みを実施する。障がいのある方が地域でふれあうことで、自然と理解を深めあうことで、共生の地域づくりを目指していく。

問 障がいのある方が権利の主体として計画策定に関わるべきでは

答 町内すべての障がいを持つ方の意見を聞くことは難しいが、出来る限り反映していくことを検討しながら進めていきたい。

新十津川町議会

facebook
http://www.facebook.com/shintotsukawa.gikai/



質問を終えて

行政計画が町民の意見を反映し、町オリジナリテイのある計画を目指すべきと考え2つのテーマで質問した。今年度見直される2つの計画が、施策の目的とその評価指標を明確化し、具体的な町づくりを進めるための行政計画であるべきと考ええる。

● 青田 議員

テーマ
農村部の新たなあり方は



町長
農業者（町民）にとって有益な町のありかたを慎重に検討すべきと考える。

問 農村部の人口が減少してきているなか、夏山冬里方式などの農村部の新たなあり方を構想すべきでは

答 夏山冬里方式が、農業者にとって有効かつ効率的な施策かを十分検討する必要があること、町の形態が変革する大きな

質問を終えて

行政や議会でも課題視されていない中の質問だったがと反省する部分を感じたが、離農や高齢化が進む本町の現状から、コンパクトシティ構想など新たな町のあり方を思考する一助となればと思う。

問 高齢化がより進む中、行政効率を考えるべき新たな町の形を構想すべきではないか

答 行政効率は確かに大切であるがそれ以上に、町民の生活を重視すべきと考えている。

● 進藤 議員

テーマ
防災行政無線受信機の設置率向上の取組みは



町長
現段階で高い設置率を実現しており、継続して取組みを行っていく。

問 現在の設置率約88%は低い、設置率を向上させるべきでは

答 世帯分離世帯、施設入所者を考慮すると95%程度と高い設置率と認識している。今後も町広報、転入者への窓口説明など設置率の向上に向け取り組んでいく。

問 運用して20年を経過、貸出機器の破損等状況の確認が必要ではないか

答 広報等で広く周知し、破損等があるときには担当課に申し出てもらうよう呼び掛けていく。

問 町民に密着した情報を積極的に放送すべきではないか

答 電波法等の関係で制限があるため放送の拡充は困難であるが、できる限り行政の情報を分かりやすく放送していく。

質問を終えて

災害が各地で多発するなか、防災無線の重要度が高いと思いついたが、設置率の認識が異なつたのは反省点。様々な規制のあるなか、今ある取組みが町民にとって更に有効に活用できる施策となるよう希望する。